令和４年度第４回 帯広圏デジタル化推進協議会
議事概要

日時：令和５年３月27日（木）
９時00分～10時00分
Zoomによるオンライン開催

１　議題１：第３回会議（書面開催）の結果について（報告）

・資料１のとおり、事務局（帯広市ICT推進課）より報告し、質疑は特になかった。

２　議題２：帯広圏デジタル化推進構想（骨子）について

資料２及び３に基づき、事務局（帯広市ICT推進課）より説明し、各委員より発言があった。要旨は以下のとおり。

委員

・帯広圏は十勝全体と比較して生産年齢人口の割合が高いことから、「３ 推進手法」の「（３）デジタルに慣れ親しんだ世代から広げていく」のとおり、子育て世代等を主要なターゲットに設定することは意味があると考える。

委員

・帯広圏の住みやすさ向上を目指すことで、圏域内はもとより十勝全体への波及も意識して取り組みを進めていくべき。
・MaaS等は小規模な取り組みも大事だが、帯広圏のスケールで課題解決に取り組むことで、外部から訪れた人の利便性向上やゼロカーボンにもつなげられる。
・データ流通や連携の円滑化は、特に子育て世代へのアプローチに効果がある。
・広い話だけをするのではなく、しっかりとしたベースを作りつつ、取り組みやすいところから実行に移すことが必要。

委員

・マイナンバーカードの保険証統合などの動きもあり、第３回会議で「医療」の追加を提案したが、重点テーマの中に「ヘルスケア」を入れてはどうか。
・十勝管内への波及について「将来的に」という文言の追加を提案した。やはり１市３町でまずは整えた上で広げていくのがよいと思う。
・慣れ親しんだ世代というところは、ここまで書かなくても当然のことと思ったが、構想に入っていることで、進め方としては明確になっていいと思う。

・重点テーマの中では MaaS も今取り組んでいるし、農業分野を早めに進めているので、少し強調したかったという思いがあった。

委員

・「１　１市 3 町で取組を進める背景」の（２）の部分で、従来から地方拠点法に基づくとあるが、拠点地域は平成 4 年からの取り組みであり、昭和 40 年代の帯広圏の都市計画から繋がりが始まっているので、それを加える方が、説得力が増す。

・「２ 基本的考え方と戦略」の 3 段落目で、「都市部への情報の集積」という言葉は、一般論としての表現だとは思うが、何を指しているのか分かりにくい感じがした。

・「目指す方向性」の３点目「デジタルの力で輝き続ける環境づくり」は、デジタル人材の育成を目指すというよりは、何か体制の構築をするようなこともあっていいのではないか。

・「４ 重点的に取り組む分野とテーマの例」の子育てと教育は「デジタル化」で文章が終わっているが、デジタル化によって何に取り組むのか記載すべき。

座長

・意見については事務局と調整する。

・集積の部分は、「デジタル」を通じ、これまで大都市圏に集中してきた競争の論理をひっくり返すぐらいの改革が起こりうることを契機に、地方圏でも新しい産業の核を作るという意味合いを含む。

・デジタル化の推進にあたり、大都市のＩＴ企業に頼るのではなく、帯広圏の中でデジタル人材を育成しサポートできる体制を作ることも必要。

・地域の中で、産業の構造を再構築してお金が回る仕組みと作り上げていくことが大きな課題であり、そのときにデジタル化が重要。

・将来の希望を作っていきながらマクロの数字を上げていくために、デジタル化をどう生かしていくのか、また、それを地方で縮図として実現していくのが非常に重要。

・生活の不便を希望に変えていく、また、遠隔地であっても、なりわいの中心地になりうるというのがデジタルの大きな効用。このロールモデルを帯広圏で作れるとよい。

・ウェルビーイングについては、総論的にはもう議論がなかなか出てこなくて、人々がどういう構成でどんな意識を持ってるのか、どこをターゲットにしていくのか。また、圏域の住民の人とともに、今後、帯広圏に来て住んで教育をしてもらって働いてもらう人たちに対するメッセージもある。もう少しいろんなデータを見ながら、議論を進めていきたい。

・ウェルビーイングについては、圏域の住民の意識や構成を踏まえたターゲットの設定のほか、将来、帯広圏に移り住んでもらいたい人へのメッセージの意味もある。様々なデータを見ながら議論を進めていきたい。

以上の発言を受け、骨子については、座長と事務局で最終的に調整することで了承された。

３　議題３：アドバイザリーボードでの議論のポイントについて

座長の進行により、各委員より発言があった。要旨は以下のとおり。

委員

・十勝、帯広圏が目指す「幸せ」について、生活者の視点がどのようなものであるのか、デジタルの力を活かしてどのように作り上げていくことができるか、といった議論を期待する。

・また、地域に何を集積していくのかは、これまで積み重ねてきた歴史や文化などが前提になると思うが、デジタルにより可能となりうるものについても示してほしい。

委員

・人口減少の中で将来を見たときに、デジタルを一つの道具としてうまく利用していくためには、今から準備が必要。ロールモデルとなりうるようなものを整理していけば、圏域として立つ道があるのではないかと思うので、プロの目で見て気づくことをテーブルに上げてもらいたい。

委員

・アドバイザリーボードの委員に１市３町の現場を感じてもらい、そのうえで、全国的な考え方と１市３町の実態をうまく融合させながら、地域に密着した提案をいただけることを期待する。

委員

・検討の分野がそれぞれ独立しているのではなく、最終的には基幹産業の農業を基盤としながら、経済の発展に繋がるような目標を持ちながら議論をしてほしい。

座長

・アドバイザリーボードでは、それぞれの領域の専門家の思いや外部からの視点、帯広圏の様々な歴史、風土、産業的な強み、住民の意識なども掛け合わせながら構想に取まとめていきたい。

・「フードバレーとかち」や食農の構想など、これまで取り組んできたことをしっかりと頭に入れ、そのうえで「デジタル」をどう活かしていくのかを考えなければならない。

・今後の具体的なプロジェクトに向けては、帯広圏ならではの取り組みを打ち出せるよう、様々なアイディアが出ることを期待する。

４　議題４：その他

事務局

・今後、アドバイザリーボードで議論を進め、協議会は中間報告と最終の 2 回開催を予定している旨を説明。

他に意見は無く、会議は終了した。